

# 教育と医学



2020 11・12 第68巻6号 目次

## 特集 演劇的手法で発達と学びを支える

特集にあたって

演劇的手法による学びと癒し

——情緒と表象が生まれる身体、そして身体表現に寄り添う

古賀 聡 2

発達支援としてのドラマ

吉川 昌子 4

生涯発達を支えるドラマ

古川 卓 12

子どもたちの癒しと成長を支える遊びとドラマ

安島 智子 28

発達障害児の思春期の人間関係を支えるドラマ

村上 広美 36

発達障害のある子どもとの「対話」を支えるドラマ

五位塚 和也 44

——エピソードと情動体験の描写

身体障害のあるひとの表現活動を通じた学びとその基盤

宮本 聡 52

〈教育のリアル〉「外部化」幻想の落とし穴

内田 良 20

〈再考「発達障害」〉「やればできる、でも難しい」こと

篠山 大明 60

〈希望をつくる教育デザイン〉

入試の障害者配慮、その課題と実際  
——「点字で代替する」ことの工夫と苦闘

南谷 和範 72

〈未来をひらく健康教育〉メンタルヘルスリテラシーの重要性

江藤 真美子 80

特別支援教育のページ▼久里浜だよりⅡ 日本入学校における特別支援教育に関する

遠隔指導について

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

70

●五反田家の子どもたち 68 ●パリアフリー絵本の世界 69

新刊情報 51 / 教育と医学関連の雑誌情報 43 / 特集題目一覧 92 / 編集後記 96 / 総目次(第六十八巻) 88

表紙イラスト・デザイン 中尾 悠

# 演劇的手法による学びと癒し

情緒と表象が生まれる身体、そして身体表現に寄り添う

古賀 聡

二〇二〇年冬に発刊される「教育と医学」の特集が、なぜ「演劇的手法で発達と学びを支える」なのか説明しておく必要があるだろう。本号の特集は当初、二〇二〇年七・八月号の特集として二〇一九年の十一月に企画された。しかし、コロナ禍によってもたらされた子どもたちへの影響について、「教育と医学」としての発信の必要を考え、二〇二〇年七・八月号では「社会不安のなかで子どもを支える」の緊急特集を組むこととなった。

学校教育の現場では、道徳教育においては役割演技（ロールプレイング）が活用され、「ドラマ教育」と呼ばれる演劇的手法を用いた授業が実践されている。大学を中心とした教育機関では、座学中心の教授型学習を脱却し、対話を通じた主体的な学びが推奨され、自らが学ぶ力を涵養することが新たな教育課題となった。対人援助職の養成課程では役割演技を用いた教育や研修が行われている。与えられた知識、用意されたマニユアルに依存することなく、まずは自らの経験をしっかりと振り返り、他者と交流しながら、柔軟な対応力のある智慧を身につけることが生涯発達の観点からも重要である。それは、社会制度や科学技術の激動的变化にさらされ続ける現代を生き抜くための力を育むことにつながる。

こが・さとし

九州大学大学院人間環境学研究院准教授。博士（心理学）。九州大学大学院人間環境学研究院博士後期課程単位取得後退学。専門は臨床心理学。医療法人十全会おおりん病院臨床心理士を経て現職。著書に、『臨床動作法の実践を学ぶ』共著、新曜社、二〇一九年、「中年期・高齢期のひとへの健康動作法」（「ふえにつくす」第75号、二〇一七年）ほか。

発達支援や心理臨床の現場においても、カウンセリングや心理教育的アプローチでは得ることのできないリアルな感情体験をとまなう自己理解を提供する方法として「心理劇（サイコドラマ）」が注目されている。即興劇を用いる集団心理療法である心理劇は、自分の現状を振り返るだけでなく、新たな自己の可能性を発見し、創造的な自己活動を支える。身体表現や行為による、まさに全身全霊をかけた自己表現が集団から受け止められ、自己存在の意義を確認する機会となる。

今回の特集で吉川先生、古川先生、安島先生、村上先生、五位塚先生は、心理劇、あるいは心理劇のエッセンスを取り入れた実践を紹介してくださった。対象は幼児から高齢者までまさに生涯発達に寄り添う教育実践と支援である。各年代の特性や発達障害など対象者の特性に応じた実践についてわかりやすく解説されている。宮本先生からは、脳性麻痺、筋ジストロフィーなどの身体障害者の表現活動としての演劇的手法を用いた実践を紹介していただいた。

いわゆる「新しい生活様式」における教育や発達支援で大切なことは、感染リスクという見えない脅威に怯えて、これまでの実践を通じて積み重ねられた経験知を放棄しないことである。慎重な予防対策を取りながら、これまで発展させてきた豊かな教育的方法や支援方法の活用を工夫する必要がある。人が人らしく生きるために必要な情緒と表象（イメージ）の基盤である身体存在を忘れてはいけない。身体表現や行為による自己表現の「舞台」までも放棄することがあってはいけない。

二〇二〇年の冬も引き続き、演劇的手法を用いた教育や発達支援の実施は制約を受けている。特集のさらなる延期も考えたが、いまこそ、読者の皆様には本号特集のユニークで豊かな実践が紹介された論文を読んでいただきたいと考えた。ドラマは過去の再現による懐古や追憶のみを提供するわけではない。共感的な集団での演技の経験は未来、希望へとつながっていく。そう遠くない未来における演劇的手法による教育や発達支援の挑戦を誓いたい。

# 発達支援としてのドラマ

吉川昌子

## 「発達支援」とは・「ドラマ」とは

本論の主題をなすキーワードの一つ、「発達支援」とは何でしょうか。関連する文献と相まって私自身が目指す方向性は、「①それぞれの発達段階にある重要な発達課題を達成するために、自己の可能性を広げる基盤となる自尊心や主体性を育むこと」、その上で「②将来の自立・適応に必要な事柄を興味・関心を持ち学べる機会と社会（集団）参加の場を保障して、子どもが持つ力を十分に発揮できるよう、個々の状況や障害

よしかわ・しよこ

中村学園大学教育学部教授。専門は発達臨床心理学。九州大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得後退学。博士（心理学）。著作に「広汎性発達障害のある中学生に見られた人との関わりの発達」（『心理臨床学研究』31(1)、二〇一三年、四一―四五頁）ほか。

特性に応じた支援を行うこと」ととらえられます。

もう一方のここで述べる「ドラマ」は、筋書きのある物語を役者が演じ、観客が楽しむ劇やお芝居とは区別され、医療・教育・福祉・矯正などの対人支援の領域で、集団心理療法として用いられる即興劇を意味します。その技法の中心となるロール・プレイング（役割演技）は、オーストリア出身の精神科医モレノ（Moreno, J.）が創始したサイコドラマ（心理劇）にその原点があります。表1はそのサイコドラマの基本を要約したものです。表1はそのまま、上述のような発達支援を目的とするドラマの重要な特徴と言えます。

表1 心理劇（サイコドラマ）の基本（一部）

1. 即興劇を用いた集団心理療法（group psychotherapy）：台本のない「今、ここで展開する（Here and Now）」ドラマの中で、集団力動の相互作用が治療的に働く。
2. 自発性理論：ドラマの過程で、自発性（spontaneity）が発揮されることで、柔軟性・創造性に富んだ、新しく適応的な役割をとることができる。
3. 役割理論：日常生活で関わる他者との関係性において、人は様々な役割（親と子、上司と部下など）を担っている。その役割のあり方は、固定的観念でステレオタイプになりやすい（役割取得）が、自発性を発揮し新しい役割を演じてみる（役割演技）体験を得ることで、固定的な役割取得で行き詰まっていた日常生活においても、より適応的な役割のあり方（役割創造）へと発展させることが可能となる。 <p style="text-align: center;">役割の発展：役割取得⇒ 役割演技⇒ 役割創造</p>
4. 心理劇を構成する5要素：演者・監督・補助自我・観客・舞台（+道具⇒6要素） [演者] 劇を実際に演じる人、誰でも自発的に演者になることができる。主役がその中心となる。 [監督] 主役のテーマに応じて場面を設定し、ドラマを展開させる進行役。グループ全体に責任をもち、主役が安全に自己表現ができるようにする。 [補助自我] 監督の補佐役、主役の自発的な行為や感情表出を促すような役割を演じる演者。 [観客] 劇を観る人。劇の展開によって観客が演者に、演者が観客に入れ替わることもあり、その役割は流動的。 [舞台] 現実の社会とは異なる架空の場面で、自由に役割演技を試すことができる安全な空間として位置づけられる。
5. 心理劇の過程（3つの相）：ウォーミングアップ ⇒ 劇化 ⇒ シェアリング
6. 代表的な技法：ダブル（二重自我法）・ミラー（鏡映法）・ロールリバーサル（役割交換法）・独白・エンプティチェア（空の椅子）・デロール（役割解除）など。
7. 余剰現実（サンプラス・リアリティ surplus reality）：実際には起こっていないこと（過去）や、こうありたい（現在）・こうなってほしい（未来）ことなど、ここにある思いを、その人にとってのもう一つの真実の世界として表現する。そこには自発性・創造性が求められる。

出典：文献6より抜粋

その一つに含まれる「役割演技」は、二〇一七年に改訂された新学習指導要領<sup>1)</sup>でも、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、その有用性が認められ、「特定の役割を与えて即興的に演技する役割演技の工夫」が「道徳科に生かす指導方法の工夫」の一つにある表現活動に含まれています。この場合の「役割演技」は、主に演じる行為そのものを示していると考えられます。一方、サイコドラマの役割理論で意味する「役割演技」には、固定化された「役割取得」から抜け出して、自由に新しい役割を演じるという発展的な役割のあり方が含まれています。このようなドラマ独自の特性をここで全て論じることは叶いませんが、いくつかのキーワードをとりあげながら、これからご紹介する事例の演技に垣間見